



顧客：

新華社通信、中華人民共和國の公式な国営通信社。

課題：

顧客のデータセンター冷却システムをアップグレードして、データストレージのセキュリティの確保と効率を向上し、エネルギーコストとメンテナンスコストを削減する。

ソリューション：

システムの旧式なシェル&チューブ熱交換器と開放式冷却塔を、効率的で高い信頼性のSWEP BPHEに交換する。

熱交換器：

2015年に38台のSWEP B80ASろう付け式プレート熱交換器を設置し、さらに2台を緊急時のバックアップとして保管。

結果：

S&T熱交換器のスケール、汚れ、およびメンテナンスを排除し、エネルギー消費を削減して、冬季のフリークーリングを可能にしました。

中華人民共和国におけるデータのセキュリティ保護と省エネ

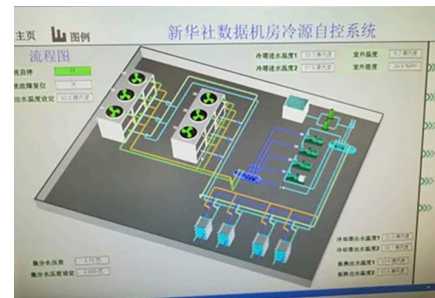
高い信頼性のデータは、高い信頼性の冷却に依存

中国の新華社通信は、「ビッグデータ」という言葉に新たな意味を与えました。世界最大のメディア市場である中国は、10億人を超えるユーザー数で世界最大のオンライン人口を誇ります。このオンライン人口の4分の1以上が農村部に居住し、国内のほぼすべてのオンライン人口がスマートフォン経由でインターネットにアクセスできると推定されています。これほど多くの人々が新華社通信に依存していることから、データセンターの運用には絶対的な信頼性が求められます。

2015年以前、新華社通信のデータセンターは、シェル&チューブ式熱交換器 (S&T) と開放式冷却塔を組み合わせた冷却に依存していました。このソリューションはすぐに時代遅れとなり、シェル&チューブのスケールや汚れの発生、それに伴うメンテナンスの増加など、さまざまな一般的な問題が発生しました。これらの問題を解決するために、SWEP BPHEを使用してシステムをアップグレードすることが決定されました。

SWEP BPHEの役割

38台のSWEP B80ASモデルを設置し、さらに2台を緊急時のバックアップとして保管しました。SWEP B80ASのコンパクトな構造により、作業員がスポットチェックを行うためのスペースが広く確保されると同時に、BPHEが工場でろう付けされた単体であるため、メンテナンスに関連するコストが削減されます。新しいシステムでは、フリークーリングを利用できるようになり、冬季にチラー稼働させる必要がなくなり、エネルギー使用量とコストが大幅に削減されました。



インターフェースから見たデータセンター冷却システム。



現地に設置されたSWEP B80ASのうちの1台。

新華社通信についての詳細

新華社通信は1931年に設立され、北京に本社を置きます。2024年現在、海外にも170を超える支局があります。同社は中国のニュースを複数の言語で発表しており、外国メディアの報道を中国国内で発表できるように調整する責任を負っています。



SWEP B80AS